

平成 25 年度第 2 回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

I. 日時 平成 25 年 8 月 9 日（金）10：00～12：00

II. 場所 いわて県民情報交流センター アイーナ 7 階 702 会議室

III. 参集者

1 岩手県地方独立行政法人評価委員会

西崎滋委員長、熊坂伸子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、関内隆専門委員

2 岩手県立大学

石堂淳企画本部長、菊池茂総務財務課長、中里裕美企画課長ほか県立大学事務局職員

3 事務局（県総務部総務室）

及川忠管理課長ほか総務室・人事課職員

IV. 会議要旨

【西崎委員長】 それでは、以後の進行を務めさせていただきます。

まず、本日の会議の公開の取扱いについて、お諮りします。

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議の内容は、公開で進めさせていただく事を御提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 では、公開として進めさせていただきます。

議題 1 平成 24 事業年度公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価について

【西崎委員長】 まず、資料 1 の項目別評価について、事務局からの説明ののち御審議いただき、次に全体評価についての御審議をいただきたいと思います。

では、項目別評価（案）について事務局、説明をお願いします。

【事務局】 （資料 1 により説明）

【西崎委員長】 では、県立大学から挙げられた 14 項目について、A とするか AA とするかを意見交換させていただきたいと思います。まず、No.9 は 4.8 点ですが AA 評価としてよろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 No.17 は、全員が AA 評価で問題ないですね。No.19 は 4.8 点ですが、何か御意見ありますか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 では、No.19 も AA 評価とします。No.20 の項目ですが、AA の評価が 2 人、A の評価が 4 人で 4.3 点ですので、少し意見が分かれたところです。何か御意見があればお願いします。

【熊坂委員】 A でいいと思います。

【西崎委員長】 私は、文部科学省で採択されたプロジェクトで進み具合が促進されたという判断でAA評価としました。

【関内専門委員】 年度計画の2つのうち、後半部分が不十分ということでしょうか。短期大学の関係の取組が秀でているわけではなく、AA評価まではいかないと。

【西崎委員長】 AA評価というのは、成果が現われているものあるいは中期計画の観点から見て年度計画を超えて実施しているものです。

年度計画を2つ立てられていて、両方ともAA評価でないとAA評価にはならないということではないと思いますが。

【関内専門委員】 編入学の成果というのは出ていないのですか。

【西崎委員長】 資料には編入学のデータはないですね。

【関内専門委員】 大学院への入学は低調だというお話がありまして、評価理由に「編入学等」とありますので、大学院進学も含まれているのであればA評価のままでいいと思います。

【西崎委員長】 編入学のデータはありませんけれども、編入学の個別指導を実施しているということで年度計画は実施されていると判断してよろしいのではないかと思います。大学院の方はなかなか難しいところですね。

【関内専門委員】 結論としてA評価を評価委員会の評価案としていいと思います。

理由はどこかに公表されるのでしょうか。こちらは県立大学の方にお知らせするのでしょうか。

【西崎委員長】 そうですね。これだと編入学等の支援の成果が明らかにされていないからAAにはならないという論理ですけれども、A評価にはなるということですよ。それだとAA評価には至らない理由としては難しいかな、と。年度計画の前半部分も成果が明らかになっていないという理由が必要になってくるかな、と。

もし、A評価のままで評価すると、文科省のプロジェクトで成果が挙げられたけれども、特筆すべき状況ではないという表現になるかと思います。

【工藤委員】 年度計画の「検討」は進んでいる、と。

【西崎委員長】 そのとおりです。実際、検討が進み授業を実施することとなっているからA評価となります。

【関内専門委員】 後半部分の実績については、確かに難しかったようですね。編入学、大学院進学に係る支援を強化するという中期計画が、年度計画にも入っているわけですね。

【西崎委員長】 年度計画の評価として、年度計画は実施しているけれども今後大学院進学に係る取組を強化してくださいというアドバイスは可能かと思います。24年度の評価ですから、24年度の計画に沿って。確かに大学院の取組はされていないことになりますけれども。

中期計画の中で進めていただく必要があるかと思います。

【石堂企画本部長】 編入学のところでございますけれども、編入学の学生を増やすという措置というよりは、高校からの進学という点では、いろいろ情報交換が行われているわけですが、編入学の場合は、取得単位の認定という問題でなるべくスムーズに3年次以降うまくできるような情報交換、措置を行ったということでもあります。

【西崎委員長】 分かりました。それで成果を見ようとすると、編入学した学生がどのように育っていったかというデータが必要になってくるわけです。

年度計画はちゃんと実施されたと判断できるかと思います。前半部分で中期計画に沿って年度計画以上の成果があがったかということになるかと思います。文科省のプロジェクトに採択されてその取組が評価されているなど私は判断したのですが、皆さん方の御意見はどうですか。

【恒川委員】 両方は計画をクリアして、1個はさらに進んでいると見ることはできると思います。

【下田委員】 最初に立ち返って、中期計画には大学院進学について記載されていて、年度計画には組み入れられていない。どこかの年度で大学院進学に係る支援というのは出てくるものなのか確認したいのですが。

【石堂企画本部長】 中期計画の最終年度には、この中期計画の成果を出さないといけないわけですので、毎年とはならないとしても出すことになると思います。ただ、成果として十分なものかどうかは別な話となりますが、中期計画を立てるとして6年間何もしないということはいかないのだと思います。

【下田委員】 24年度に限って言えば、編入学に対する支援を強化するというのが目標と。

【西崎委員長】 評価委員会としては、中期目標・中期計画の期間はあと3年しかないのですから大学院進学支援を明確に入れて推進してくださいというアドバイスは可能だし、それを県立大学がどう受け取られるかは来年度の年度計画を考えるときに考慮していただければと思います。

【熊坂委員】 皆さんのお話を聞いていて、やはり特筆すべき状況とまでは言えないのでAだと思っています。

【西崎委員長】 御意見も出揃ったようなので、ここはAということによろしいですね。

評価の理由としては、学生の就業力育成の取組は、文部科学省のプロジェクトに採択されるなど強化されたものの、特筆すべき進行状況まで至っていないという理由になるかと思えます。

最終的な表現は、事務局にお任せして、A評価にしたいと思います。

次のNo.23については4.8点ということAA評価ですがよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 次のNo.29も4.8点でAA評価ということですが。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 次のNo.30はちょうど3名、3名で意見が分かれてA評価ですが。

いろいろ復興の取組をやって、成果を何に求めるかということだと思えるのですけれども、この前のヒアリングの時にも学長さんも強調されておりましたが、学生が成長したと。これが1つの大きな成果じゃないかな、と。具体的な活動の成果もあったかと思いましたが、この辺を少し皆さんの御意見を伺って最終的な判断をしたいと思えます。

【熊坂委員】 計画どおり行われて大変よかったと思います。特筆すべきとまでは思えないですけれども。

【下田委員】 私はAA評価です。中期計画に照らした場合、24年度のボランティア活動は充実していたのではないかなという印象があったので、私は特筆すべき状況にあるという評価をしましたが、Aで不満なのかと言えば、ルールとしてAでもいいのかないかなという気がしていま

す。

【工藤委員】 私はAにしたんですけれども、震災に関わって活動されたことはそのとおりだと思いますが、目標を達成したにとどまるのかなということで、Aにさせていただきました。

【熊坂委員】 数字で表せないことをそれぞれの感性で判断するので、様々な意見があるのは当然です。そのためのルールですので、いいかなと思います。半々の4.5をAとするというルールですので、それでよろしいと思います。

【恒川委員】 今回初めて参加させていただいて、作成方法を読ませていただいた中で明らか成果というところで、少し厳しかったかなと思いますけれども、AA評価に値する基準と言うのが特記事項で読む範囲においてはかなり厳しいのかなと受け取ったものですから。

【熊坂委員】 一昨年もお話した記憶があるのですがけれども、法人の自己評価の時にAまで出していただくのは当然なのですが、特筆すべき事項まで候補を挙げてくるのはあまり例がないです。大体Aまで出していただいて、評価委員会がヒアリングして、しかるべきだというものにAA評価をするのが最適だと考えております。法人側から、最初からAA候補を出されると、Aにするのにとっても抵抗がありまして、申し訳ないなと思いつつやっているわけです。委員にプレッシャーがかかると言うほどではないのですが、できればAA評価は委員の方で一致して挙げさせていただく方法だといいな、と思います。

今回は、Aにする理由を書きなさいということでしたが、AAにする理由を書きなさいというのであればやりやすいのです。

【西崎委員長】 カウンセラーを派遣したというのがありますが、カウンセラーが何人対応されたか、対応しただけでも成果になると思うのですがけれども、その辺をはっきりさせたほうが成果というものが見えてくるのではないかと思います。

【工藤委員】 AをAAにしているのは、自治体と連携をしたからAからAAにしますという自己評価をされたのでしょうか。年度計画をクリアして、さらに年度計画にかかっているからAAという評価であれば、自治体との連携がというところであれば、大学が活動する時には必然的に自治体と連携するのは自然な流れかなと思うとそこを敢えて特筆と言ってしまうと自ずと特筆となってしまうので、それ以外で評価すべきものなのかと。私としては、自治体との連携は必然なので、そこを特筆とは評価しなかったけれども。

【西崎委員長】 「特筆すべき進行状況にある」の選定基準の①「年度計画に掲げる取組を達成しつつ、更に中期計画に沿った取組が付加・実現されているもの。」か②「取組の結果、何らかの成果が明らかになっているもの。」か、ということになるかと思いますけれども、私個人的には、記述はありませんでしたが②で特筆すべき進行状況にあると判断されたのではないかと思います。

【石堂企画本部長】 自治体から依頼があった場合、必ずしも連携しなければならないというものでもないですし、きちんと連携できるかというこちら側の体制の問題もありますので、連携しなくても現地調査とか自主的な研究調査を行う場合もありますので、必ずしも連携は必要ではないかと。

【関内専門委員】 私だけ県外者ですが、全体を見るとこの項目は地域貢献の項目の中にあって、県民のシンクタンク機能を取り上げており、県民のための大学として非常に大事な項目だと思います。私から見たら目標以上のすごい活動をしているのではないかと考えておまして、

私も AA にしたところであります。

量的に把握することは難しいですが、年度計画として目標以上に活動されていたのではないかと考えまして、AA にいたしました。県民の方々がもう少し頑張ってもらいたいということであれば、A でも仕方がないですね。

【西崎委員長】 最初の目標は年度計画を達成しているわけですが、成果が現われているかという意見の分かれるところです。

意見が出尽くしたところですので、A と評価をせざるを得ないかと。

次に、No.32。平均は 4.7 ということで AA と。

【下田委員】 私がなぜ A 評価にしたかといいますと、中期計画の中で広く県民の参加を得られるような公開講座というところに鑑みて、計画の進行状況の中ではまだ広く県民が参加するまでに至ってないのではないかなというところだったので。

【西崎委員長】 これは、前回のヒアリングの資料にデータがありまして、公開講座数を増やすということは広く集めようと努力したと認められるかと思います。受講者数も若干増加していました。

【下田委員】 「広く県民の参加」がどの程度か、その差なのかという気がしたのですけれども。進捗はしたけれども。最終的に、例えば、私個人が興味をそそられる公開講座の情報に日常触れることがなかった。一県民として、まだ進捗がいけないんじゃないかと。

【西崎委員長】 公開講座の宣伝、ということですね。

【下田委員】 そうですね、それなりに参加してみたいというようなことになればよかったのかなど。

【西崎委員長】 いろんな努力はされていますよね。病院の待合等にチラシが置いてあるなど、努力はされているなど。

【石堂企画本部長】 そちらに関しては、岩手県は広いということで地区講座としてこちらから出向いて、特に沿岸地域、釜石・宮古で実施したということが中心になります。

【下田委員】 広く県民にということとは、必ずしもあまねく県民にということではなくて、地域のニーズに従ってという意味もあるということですね。

【石堂企画本部長】 そういった機会を作るということもあります。

【西崎委員長】 それでは、No.32 は AA 評価でよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それでは、No.33 も 2 人の委員が A 評価ということですが、AA 評価でよろしいですか。

【関内専門委員】 AA で構いません。新たな協定締結に向けて、教員間の連携を促進するというのが年度計画で、ここで言う教員間の連携というのはそのような協定締結に向けた交流ということですね。協定は締結されたが、その実績として教員間の交流が始まっていないのではないかと、私に思っていたのですが、私の勘違いでした。

【西崎委員長】 私も、教員の交流はまだという気がしたのですけれども、3 つも協定を結べたのはなかなかないことかなと思いました。

【関内専門委員】 協定を結ぶ前に、準備段階として教員間の交流があったと理解すればよかったのかなど。

【西崎委員長】 私も、今後教員間の交流を促進してくださいとコメントしました。

No.33 も AA 評価でよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.35 は、2 人の委員が AA、4 人の委員が A 評価でした。

かなり、努力はされていると思いますけれども、4 人の委員が A 評価ということですので、A 評価としてよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 次の No.38 ですが、ちょうど 3 人ずつ評価が分かれたところであります。実績の後段の法人職員の処遇の見直しが平成 25 年度からの実施ということで、そこをどう評価するかということがひとつあったかと思ひます。

【下田委員】 前回もお伺いしたところですが、評価委員評価の理由のとおりだと思います。

【熊坂委員】 A でいいと思います。AA にしましたけれども、微妙なところだったので。

【西崎委員長】 それでは、No.38 も A 評価ということでよろしいですか。

【関内専門委員】 私は、前半部分を高く評価しました。審議するところが決定するところまでいったというのが進んでいるなど思ったので。2 番目をどう評価するかですが、そこで AA と評価しました。

【西崎委員長】 2 番目の計画についても、達成したかとは思ひますよね。

【関内専門委員】 特任教授制度というのは大学運営にとっては非常に機動的なシステムであることは間違いないと思ひます。

【西崎委員長】 確かに、検討するという計画で決定して人選まで行ったということではあります。どのくらいの規模でしたでしょうか。何人の特任教授が採用されましたか。

【石堂企画本部長】 2 人です。

【西崎委員長】 それでは、No.38 も A 評価と AA 評価が半々ということで、A 評価でよろしいですか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.43 につきましては、委員の皆さんの意見交換の結果として、AA 評価ということではいかがでしょうか。

【下田委員】 私は仕事柄、黒字が非常に気になる場所です。中期計画の中の大学運営経費の効果的・効率的執行というところで、年度計画には触れられてはませんが、結果として経費の効率的執行が達成されているために黒字だったと思ひまして AA にしました。

【工藤委員】 確かに適正化を図って黒字だったということですね。私は A にしたのですけれども。

【関内専門委員】 私は AA を付けたのですけれども。メリハリをつけて、今回は地域貢献、今回は教育力というような感じで、このようなやり方はいいのではないかと。

【工藤委員】 AA でいいような気がします。

【恒川委員】 私は、最初 A と AA の違いの成果ですとか特筆すべきというのが評価委員会としてどのくらいで評価してきたというのが分からないところがありまして、よほどの成果でない AA にしてはいけないのかなと。AA は今のお話であれば、AA でいいと思ひます。

【西崎委員長】 なぜ評価するかというと、県立大学のいいところを伸ばしていただくところが

1 番大事かなと思います。甘く評価するというのではなくて。

【熊坂委員】 私はAでもかなり高く評価しています。AAは誰も異議を唱えることがないぐらいの評価かと。

【西崎委員長】 No.43につきましては、皆さんと意見を交換しまして、AAということではいかがでしょうか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.46についても3人ずつに分かれたところでもあります。

年度計画は達成されているかとは思いますが。私の大学でも最近ツイッターを使って周知するようになってきました。今までは掲示板だけでやってきたので、学生に正しい内容が伝わらないこともあったようです。

県立大学さんでもソーシャルメディアが使われてかなり広範に普及しているなど見受けられましたが、ここで評価が分かれるところではあるかと思えます。これが普通だということになれば、達成したにとどまるという評価をされる委員もあると思えますので、意見交換をさせていただきたいと思えます。

【関内専門委員】 私は、文科省主催のフォーラムで事例発表を行ったということの評価したいと思います。

【工藤委員】 私はAにしたのですが、ソーシャルメディアを使って広報活動と言っていて、実際書いてある数が学生数から見て、学生さんがあまりフォローしていない、「いいね！」していないとなると。やりましたね、という数値かなと。積極的に行ったという評価であればもう少しでもいいかと思えます。

数が少ないだけで周りに広がっていく場合もあるので、必ずしもそれだけでは評価できないところはありますが。

【石堂企画本部長】 大きいトピックがあると数が増えるわけで、単純に数の増減だけで判断されると、大学側としては非常に厳しいところがあります。今回、ソーシャルメディアを使ったうえで、そこからの情報収集をし、年に4、5回発行している広報誌の記事のテーマとして拾うということもしています。なるべく単独ではなく統一的にやろうという取組のなかでソーシャルメディアを使っています。まだ始めたばかりなので、軌道に乗せたいと思えます。

【下田委員】 今回の御説明は、年度計画のソーシャルメディアを使った広報活動の展開ということだと思うのですが、私は最初AAを付けたのですが、工藤委員のお話に納得してしまったところもあります。今後、効果的に戦略的に広報活動が増えていけば中期計画につながるのかなという印象を持ちました。

【西崎委員長】 それでは、No.46はA評価ということで。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.50は4.8点ということで、AA評価でよろしいでしょうか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 今までAA評価について行ってきたわけですが、それ以外の評価で何かありますか。

【一同】 (意見なし)

【西崎委員長】 では、項目別評価につきましては、No.43を評価委員会としてはAA評価に改め

ることとします。

全体評価に移ります。まず、事務局から説明願います。

【事務局】 (資料No.2により説明)

【西崎委員長】 御意見をお伺います。全体評価のところ、おおむね計画どおりに進んでいるということによろしいですね。

【一同】 (意見なし)

【下田委員】 大学院に係る記載について、これは項目別評価につながるのでしょうか。

【事務局】 昨年度から記載しております。計画ではNo.1に当たるところです。

【西崎委員長】 こちらは第1期中期計画からこのような表現でしたか。

【事務局】 はい。

【関内専門委員】 関連して。先ほどA評価がなかった項目を出しておりますが、このNo.1はA評価だった年度はあったのでしょうか。

【事務局】 昨年度もB評価です。

【西崎委員長】 大学院の充足についてここまで書くのは厳しいかなと思います。

【関内専門委員】 どの大学院も充足については厳しい状況です。

【西崎委員長】 あまりに充足率が厳しいと定員を検討する必要はあっても、全体評価で言明するのがいいのかなという気がします。

【事務局】 この後、剰余金の処分案の議題もありますが、学生の定員充足率で翌年度の繰越を認めるかどうかということもあり、それに絡めたコメントでもあるかと思います。

【西崎委員長】 分かりました。それでは、先に進めましょう。各分野別にこの他に上げる項目があれば御意見をお願いします。

国際交流に関する項目についても取り上げたいかと思います。オハイオ大学との交流は何がきっかけで行われたのですか。

【菊池総務財務課長】 オハイオ大学の先生が以前東和町で勤務されており、今回の3.11の災害を聞きまして、何とか大学として協力したいということで、東和町で勤務されていた際に交流のあった本学の教員を通じて、大学として交流できないかということで始まったと聞いております。

【西崎委員長】 海外からの受入れもありますし、海外への派遣もありましたよね。

【事務局】 それでは、教育研究、地域貢献の項目の⑤の後に、No.33の項目を入れたいと思います。

【西崎委員長】 項目別評価は、先ほどと同じでありますけれども、特に何か御意見ありますか。

【下田委員】 先ほどの全体評価ですが、大学院についての話をこちらに記載するのはおかしいですか。個別の評価対象にもなっていることなのかなと。

【西崎委員長】 24年度の評価と言えば大学院の項目はないけれども、中期計画の中では挙がっていることなので、そういう意味では今後そういう取組を行って下さいということで総評に記載する意味はあります。

【下田委員】 この項目がB評価なのは、年度計画には載っていないけれども大学院の取組が行われていないからB評価なのかなと。

【西崎委員長】 試験制度の検討にとどまったということでBだったと思うのですけれども。

【下田委員】 大学院の項目が総評にあるのは違和感を覚えるので、項目別の項目にあった方がおさまるのかなと思ったのですけれども。

【関内専門委員】 書き方を変えて書いてもらおうといいかもしれません。

【西崎委員長】 関内委員の意見を受け入れた方がいいかもしれませんね。3つめの項目に何か見出しをつけて、大学院の項目を続けるということではいかがでしょうか。

改善を要する事項については何かありますか。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 別表1については何かありますか。No.39になりますが。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 人材育成プランの見通しはどうでしょうか。

【石堂企画本部長】 計画が進んでないわけではありません。理事会まではいっているところですが、詰めのところであと1歩というところです。

【西崎委員長】 別表2については、県立大学から提出された項目のうちAA評価のもののみを記載するというので、議論の余地はないかと思います。

修正後の形でこの案を承認したいと思います、よろしいでしょうか。

【関内専門委員】 形式的なことで。別表1は本文に出てくるものなのではないでしょうか。気になったことですので、後で修正していただければ結構です。

【西崎委員長】 それでは別表1の取扱いを工夫してください。それでは、議題1の業務の実績に関する評価の審議を終わらせていただきます。

議題2 公立大学法人岩手県立大学の平成24年度財務諸表に係る知事の承認について

議題3 公立大学法人岩手県立大学の剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について

【西崎委員長】 それではは次の議題移ります。

議題2「公立大学法人岩手県立大学の平成24年度財務諸表の承認に係る事務局における確認について」と議事3「剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について」は併せてして審議したいと思います。

それでは、事務局から説明願います。

【事務局】 （資料No.3及び4により説明）

【西崎委員長】 議題2について御質問・御意見等ありましたらお願いします。

【下田委員】 基本的には会計監査人が適正と意見を述べられているのでよろしいと思います。

資料3の2ページ目の表の合計が一致しないのは。

【事務局】 収益と費用の主なものを抜粋したもので、合計は一致しません。

【西崎委員長】 では、議題2については、事務局案のとおりでよろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 議題3については、何か御意見があればお願いします。

【一同】 （意見なし）

【西崎委員長】 それでは、議題3についても事務局案のとおり承認されました。

議題4 その他

【西崎委員長】 その他、事務局から何かありますか。

【事務局】 今年度初めて評価方法を変更しましたが、そのやり方について何か御意見をいただければ。

【西崎委員長】 工業技術センターには自己評価で AA 評価はありませんでしたでしょうか。

【事務局】 工業技術センターは、法人も 5 段階評価です。

【熊坂委員】 法人自らが AA 評価をつけるというのはあまりありません。

【西崎委員長】 評価方法については、だんだん慣れるかとは思いますが。

先ほどのように 3 対 3 に評価が分かれたときにどうするかというのが課題でしょうか。

【熊坂委員】 やはり色々な立場の方がそのためにいらっしゃるの見解が違うのは当然で、少数意見を反映できるルールでやっていただけているのはいいなと思っています。当然、勘違いとかもあるのでそういう確認は必要ですが、基本的にそれぞれの印象は大事にさせていただいて、無理やりすり合わせなくてもいいのかなというのが率直な感想です。

【下田委員】 私、昨年度の途中からの参加で違和感を感じたのは、計画の進捗の評価であって計画そのものの評価ではないということだったので、この評価を利用する方が思い違いをなさって、計画そのものの評価と見られる心配はないのかなと、感じています。

外部に出すときに、その旨を明記したらどうかと事後的に事務局にお話ししたところですが、評価委員の責任を限定する意味で、これは進捗を評価するものですという一文があってもいいのかなと思います。

【恒川委員】 私も全く同じに感じまして、昨年度からの継続課題となっていて、計画そのものを見直す必要があるものもあると思うんですね。目標に対する評価の位置づけを明確にさせていただくことはすごく大事なことだと思いました。

【熊坂委員】 計画の立案には評価委員会はタッチしない立場です。あくまでもそちらで出した計画に対する進捗を評価する立場として、計画が変なのではと意見することはできないのです。

【西崎委員長】 我々の責任ははっきりしていて、それは公表されています。計画と結果と両方を見る方はほとんどいなくて、結果だけ見ると何やっているんだということになりかねませんね。

【熊坂委員】 目標に対し計画が複数あって、1 つは達成しているけど 1 つは半ばというときに評価はどうすればいいのと。計画を立てるときに、1 項目 1 評価が原則ではないかと思うのですが、立案には口を出せませんので。

【恒川委員】 前半が AA で後半が B のときどうすればいいかと悩みます。

【熊坂委員】 評価の目的は、次の改善につなげるためのものですが、次の計画にどのように反映してもらえるのか、よく分からないところがあります。

【西崎委員長】 中期計画毎に評価していますので、中期計画を達成するための年度計画にどのように反映されるか気になりますね。国立大学の業務評価は年度計画ごとに提出しています。国立大学法人の教育・研究評価については中期目標・中期計画期間 6 年まとめた評価で、毎年度の評価は業務運営についてだけです。

【関内専門委員】 考えてみれば、毎年こんなに丁寧に評価をしていますよね。

評価委員会の役割というのは、既に出来上がっている中期計画や年度計画の達成度を評価するというのは、どこかに書いているわけですよね。ただし、それが強調されて書いてある

かどうか。

【西崎委員長】 それはちょっと検討してもらって、評価委員会が何をするのかということを報告書のどこかに明記する必要がありますか。

【下田委員】 素晴らしい計画が進んでいると思う人はいないのかな、と。私としては計画が素晴らしく進んでいるとしても、素晴らしい計画が進んでいるとなってしまうのではないかと心配しています。

【西崎委員長】 報告書のはじめに書いた方がいいですかね。一応は書いてはありますけれども。

【事務局】 ホームページに公表する際には、昨年度の御指摘を踏まえた表現にしております。

【関内専門委員】 チャートみたいなのがあれば分かりやすいのかもしれませんが。

【西崎委員長】 では、以上をもちまして、議事を終了させていただきます。

御協力ありがとうございました。